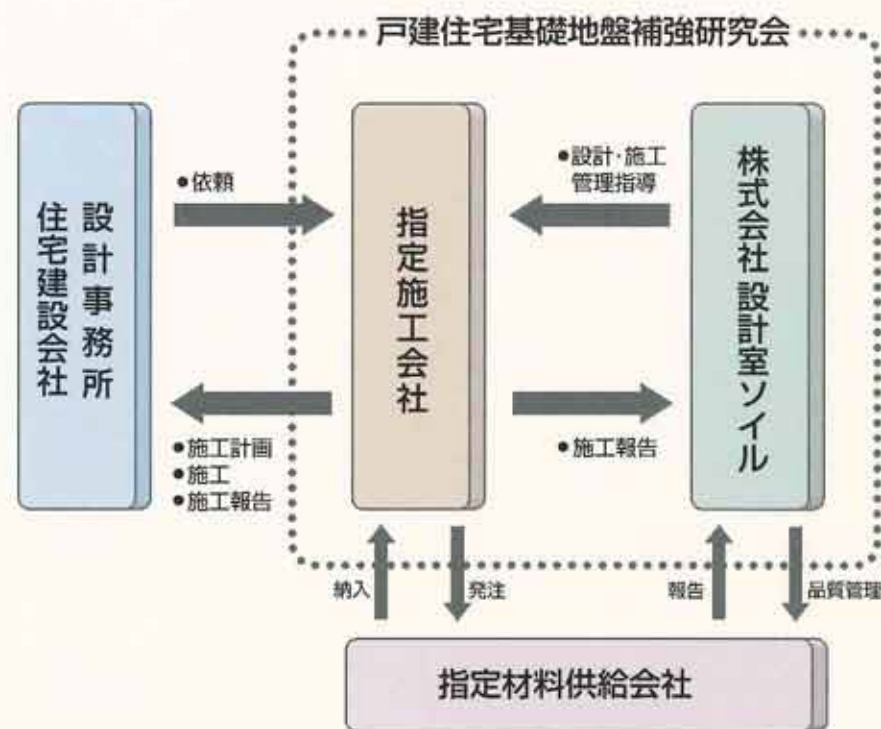


# 豊富な実績と確かな性能でご信頼にお応えします。

RES-P工法は、早くから一般財団法人日本建築総合試験所の建築技術性能証明評価 [性能評価第04-02号] を取得し、これまでさまざまな軟弱地盤の改良工事において、その性能に対する絶大なるご評価を頂き、5万棟を超える実績を積み上げてまいりました。その間に培った技術・経験・実績をもとに、尚一層皆様のご信頼にお応えしていこうと考えております。

## 品質管理

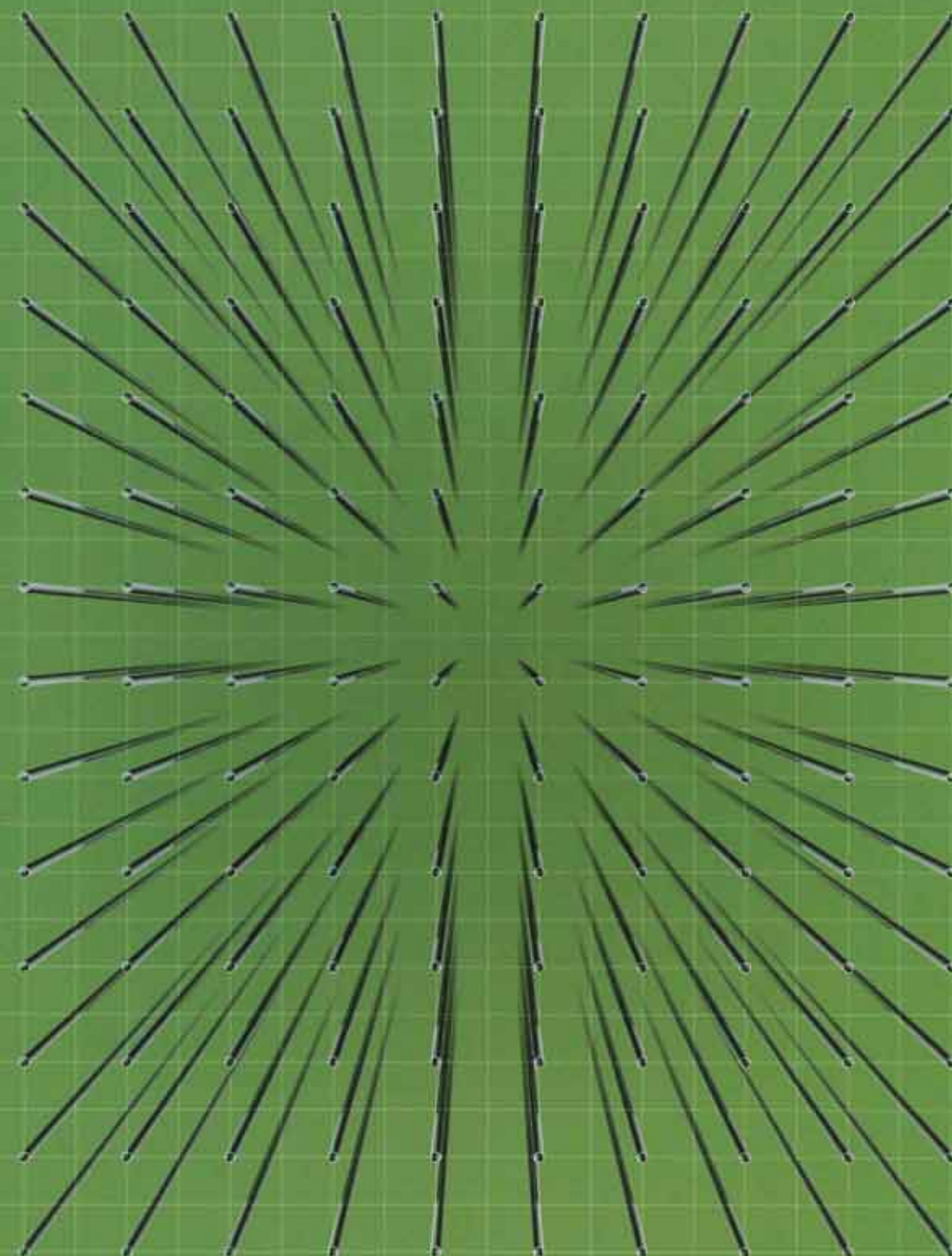
RES-P工法は「戸建住宅基礎地盤補強研究会」により、設計・施工・監理が統一して運用されています。



Reinforced Earth with Steel Pipe

# RES-P工法

——小規模建物の基礎地盤を補強する——



## 「戸建住宅基礎地盤補強研究会」の指定施工会社

- |                   |              |                 |                 |
|-------------------|--------------|-----------------|-----------------|
| アースプラン 株式会社       | アートクレーン 株式会社 | アキュテック 株式会社     | 株式会社 アルク        |
| エイチ・シー・サービス 株式会社  | 株式会社 オートセット  | 株式会社 恩田組        | 兼松サステック 株式会社    |
| 有限会社 黒澤重機工事       | 株式会社 サムシング   | ジオテック 株式会社      | 株式会社 システムプランニング |
| 株式会社 システムプランニング東京 | 株式会社 新生工務    | 炭平コーポレーション 株式会社 | 有限会社 世和         |
| 株式会社 創和           | 大和ランテック 株式会社 | 地研テクノ 株式会社      | 千代田ソイルテック 株式会社  |
| 土筆工業 株式会社         | 株式会社 テラ      | 株式会社 東亜機械工事     | 富士重機工事 株式会社     |
| 報国エンジニアリング 株式会社   | 雅重機 株式会社     | 株式会社 横浜ソイル      |                 |

(アイウエオ順)

※本資料に記載する技術情報は製品の代表的な特性や性能を説明しているものであり、技術の進歩により予告なしに変更される場合があります。

## 戸建住宅基礎地盤補強研究会

### 株式会社 設計室ソイル

〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目3番12号 E-1ビル4F  
TEL 03-3273-9876 FAX 03-3273-9927 <http://www.soil-design.co.jp/>

# 弱い地盤を強くして住まいの安心を守る、RES-P工法。

RES-P工法(レスピー工法)はパイルド・ラフト基礎工法の一つです。弱い地盤中にパイプ(細径鋼管)を貫入して、地盤とパイプの複合作用で地盤を強くして沈下を防ぐ、住宅の基礎地盤補強工法です。

RES-P工法は...



1. 平面地盤補強工法です。
2. 残土が発生しません。
3. 養生期間が不要です。
4. 深さ14mまで補強可能です。
5. 狭小地でも施工可能です。
6. 低振動・低騒音で施工します。
7. 擁壁近傍で施工可能です。



## 適用建物

- ・ 地上3階建て以下
- ・ 建築物高さ13m以下
- ・ 延べ面積1,500㎡以下

## 適用基礎構造

- ・ べた基礎  
長期設計荷重: 80kN/m<sup>2</sup>以下
- ・ 布基礎  
長期設計荷重: 50kN/m<sup>2</sup>以下

## 適用地盤

- ・ 粘性土地盤
- ・ 砂質土地盤

## パイプ仕様

- ・ 外径: 48.6mm
- ・ 肉厚: 2.4mm
- ・ 材質: 一般構造用炭素鋼

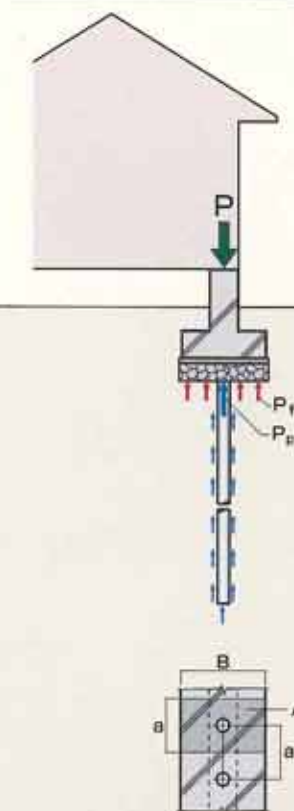
防錆処理が施されており、長期の耐久性があります。



※RES-P工法はパイプを杭状に配置しますが、杭状補強ではありません。パイプを密に打設するため、表層改良工法と同じ地盤改良に区分されます。

## 設計

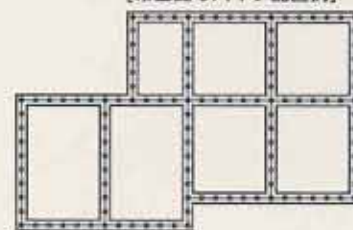
### 布基礎の場合



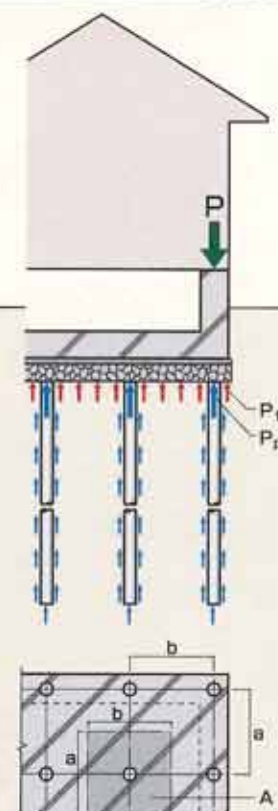
P: 建物の荷重  
P<sub>f</sub>: 地盤が負担する力  
P<sub>p</sub>: パイプが負担する力

A: パイプ1本の負担面積  
a: パイプのピッチ  
b: パイプのピッチ  
B: 布基礎のベース幅

[布基礎のパイプ配置例]



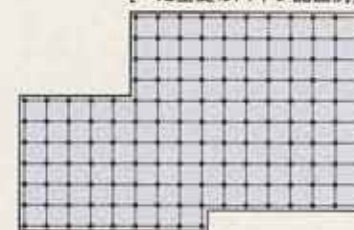
### べた基礎の場合



P: 建物の荷重  
P<sub>f</sub>: 地盤が負担する力  
P<sub>p</sub>: パイプが負担する力

A: パイプ1本の負担面積  
a: パイプのピッチ  
b: パイプのピッチ  
B: 布基礎のベース幅

[べた基礎のパイプ配置例]



## 【設計の基本的な考え方】

RES-P工法では、地盤とパイプの両方で建物の荷重を支えます。

$$P = P_f + P_p$$

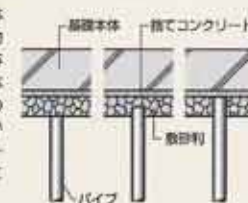
RES-P工法で補強した地盤の長期許容支持力  $q_{ra}$  (kN/m<sup>2</sup>) の算定。

$$q_{ra} = \frac{1}{5} q_d + \frac{1}{2} \frac{P_d}{A}$$

$q_d$ : 単盤強度 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $P_d$ : 設計パイプ耐力 (kN)  
 $A$ : パイプ1本の負担面積 (m<sup>2</sup>)

## 【パイプと基礎の関係】

パイプと基礎本体は地震時の水平力などをパイプに与えないために一体化せず、パイプの頭部は根切り底から捨てコンクリート下層までの間に納めます。



## 施工

### 1. パイプの建て込み



パイプの頭部に貫入装置のロッドをセットし、パイプ芯位置にパイプを立て込む。

### 2. 鉛直度調整



パイプの垂直性を、リーダーを鉛直にすることにより保つ。

### 3. 回転圧入



貫入装置の圧入力および回転力によりパイプを貫入する。

### 4. 貫入深さ確認



パイプの貫入深さおよび貫入抵抗を記録して施工完了。